

キャラクター名  
帯刀 勇

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン ウロボロス	ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	大学生
オプション		年齢	20歳	性別	男
覚醒	命令	衝動	妄想	初期侵食率	33%
出自	12：義理の両親	経験	46：平凡への反発	邂逅	11：保護者

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	1	0	0			1	行動値	8
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	8
精神	5	1	0			6	戦闘移動	13
社会	1	0	0			1	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	1		交渉	1	
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転：			芸術：			知識：レネゲイド	2		情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
	交渉	6r+1		10		100未満 ダメージ+2D
	交渉	9r+1		14		100↑ ダメージ+7D

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
嗜好きの友人	

合計装甲： 0 合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
対抗種	P	N		
かつての友人[PU]	P 遺志	N 劣等感		
厄災[OR]	P 執着	N 食傷		
自分自身	P 執着	N 憎悪		
氷見川 薺	P 傾倒	N 恥辱		
門待 匠海	P 友情	N 不信感		
Sロイス：里里市	P 幸福感	N 不安		

最大財産P: 4 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
C:ノイマン	2	2	Xジャー	-	-	シンドローム	-	
効果：	組み合わせた判定のクリティカル値を-1する(下限値7)。取得時に自分の取得しているシンドロームからひとつを選び、(コンセントレイト：サラマンダー)のように認識して、シンドロームごとに別のエフェクトとして扱う。また、このエフェクトは選択したシンドロームのエフェクトとして扱うこと。							
言葉の刃	1	3	Xジャー	視界	単体	<交渉>	-	
効果：	「攻撃力:+LV」の射撃攻撃を行なう。この攻撃では、対象の装甲値を無視してダメージを算出する。							
フェイタルヒット	4	4	オート	至近	自身	自動	100↑	
効果：	あなたが行なうダメージロールの直前に使用する。そのダメージを+(LV)Dする。このエフェクトは1ラウンドに1回まで使用できる。							
理知の城壁	1	1	Xジャー/リア	-	-	-	-	
効果：	このエフェクトを組み合わせた<交渉>判定は【精神】で判定を行なうことができる。							
ラストアクション	1	5	オート	至近	自身	自動	100↑	
効果：	あなたが戦闘不能になった瞬間に使用できる。あなたはメインプロセスを行なう。このメインプロセスは行動済みでも行なえ、行なっても行動済みにならない。また、このメインプロセスが終了するまで、戦闘不能の効果は適用されない。このエフェクトは1シナリオに1回まで使用できる。							
虚構のナイフ	3	3	Xジャー	視界	単体	【精神】	-	
効果：	このエフェクトは攻撃に組み合わせて使用する。組み合わせた攻撃の攻撃力を+[LV*3]する。							
原初の紫：妖精の手	2	4+1	オート	視界	単体	自動	-	
効果：	対象が判定のダイスをふった直後に使用する。対象の判定のダイス目のひとつを10に変更する。このエフェクトは対象が判定を行なっている最中にも使用できる。このエフェクトは1回の判定につき1回まで使用でき、1シナリオにLV回まで使用できる。							
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

たてわき いさむ。  
たぶん陰キャ。不良らしくない不良寄り(?)  
不愛想。当たり強め。自分に厳しく他人に厳しいタイプ。  
平凡は手に入らないから「退屈だ」と思っておくタイプ。  
命令されるのは嫌いだ自分が役立たずであることのほうが許せないタイプ。

かつての支部長のことを極夜と呼び始めた。